

未曾有の原発事故が起こってから、まだ5年もたっていない。

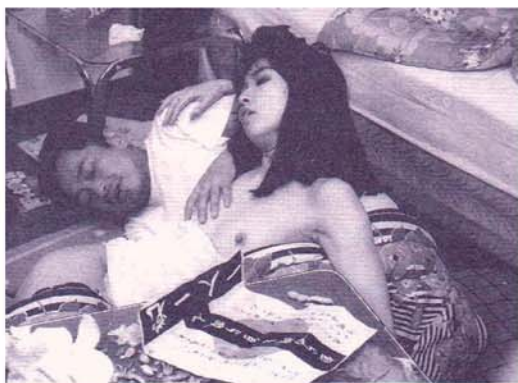
第1原発は収束していないし、事故は何故起こったのか、総括もされていない。なのに、川内原発が再稼働され、原発ゼロの記録が1年11か月で潰れてしまった。この国に帰還困難地域が出現してしまったのに。健康被害の実態も明らかでないのに。

誰も答えを出さないうちに。誰も責任をとらないうちに。

ここに、事故以前から現在に至るまで、映画人たちが、原発と向き合った作品がある。とりあえず観よう。観て考えよう。それでも再稼働が必要というのなら、話はそこからだ。

§1 PRE-FUKUSHIMA 編 10/24(土) 17:45 開場 (2本立+トーク)

18:00~19:05 昭和群盗伝2 月の砂漠



(成人館公開題名「破廉恥舌戯テクニク」)

1990年 国映=新東宝 16mm版 65分 (R-18)

監督/瀬々敬久 脚本/佐々木宏・瀬々敬久

出演/下元史朗・川奈忍・伊藤清美・佐野和宏

元自衛官で、今は興信所をしている津田は、かつての上司から平岡という男を調べてほしいと依頼される。平岡は、かつて原子力発電所で働いていた者が水死体で発見された事件と関係があった。その依頼の背後には政界の恥部に関する大きな陰謀が隠されていた…。原発ジブシー、円谷幸吉といったモチーフをもちこみ、近年の『ヘヴンズ ストーリー』、『ストレイヤーズ・クロニクル』迄、常に意欲的な題材で映画界に新風を巻き起こし続けている瀬々敬久監督の、初期の傑作の一本。

19:30~20:51

へばの

2008年 team JUDAS

DVCAM(※DVDでの上映になります) 81分

監督・脚本/木村文洋 出演/西山真来・吉岡睦雄

核燃料再処理工場がある青森県六ヶ所村。この地で生活する紀美(きみ)と、彼女の恋人でありその工場で働く治(おさむ)。二人はごく普通の幸せを思い描いていた。結婚して子どもをもうけ、新しい家庭を築く。だが、ある事件をきっかけに、二人の運命は大きく変わり始めるのだった。荒涼とした雪原をとらえた静謐な映像美と、俳優陣の素晴らしい演技に息を呑む、新鋭・木村文洋監督による渾身の一作。

21:00~21:30(予定)

フリー・トーク

「映画は、原発とどうたたかえるのか」

ゲスト:瀬々敬久監督、木村文洋監督



入れ替えなし。

■当日券 一般 1800円 会員 1000円

■前売券 一般 1500円

※特別興行につき、招待券、回数券、各種割引はご使用できません。ご了承くださいませ。

§2 POST-FUKUSHIMA 編

10/24(土)~30(金) セシウムと少女

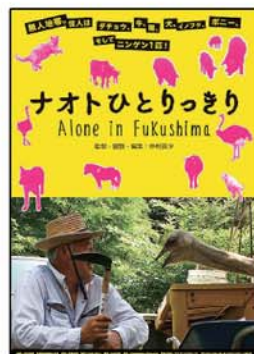
17歳の少女とおかしな神さまたちの冒険を通して、日本の近現代史が浮かび上がる奇想天外な物語。

「セシウムと少女」前売券 1000円発売中

10/31(土)~11/6(金)

ナオトひとりっきり Alone in Fukushima

福島第一原発からわずか12キロ、避難地域に取り残された動物たちと暮らす男性を描いたドキュメント。



※各作品の上映時間はお問い合わせ下さい。